

# 漆を用いたパッケージ

A2201209 小島むつみ

## 研究の背景および概要

漆は昔から存在する塗料で繊細さ、滑らかさの独特の美しさがある。「JAPAN」と呼ばれた日本の漆文化は現在まで脈々と受け継がれてきた伝統であり日本の美が凝縮されていると考える。しかし現代の漆器産業は低迷状態である。その要因として、生活の洋風化・日用雑器分野において輸入品の品質向上・ガラスやプラスチックの普及があげられる。さらに漆は高価なものでなかなか手が出しにくい代物である。これらにより今の私たちが生活の中で漆器、漆製品を使う機会が減ってきており、その美しさを多くの人に伝えていくのは困難である。

しかし、新たな分野にも進出することにより、日本の美と漆の美を多くの人に感じ・知ってもらいこれからも受け継いでいくことができると考える。そこで新たな分野で伝える媒体として身近なものとしてパッケージに着目した。パッケージに如何に漆を盛り込んでいくかということを中心に研究する。

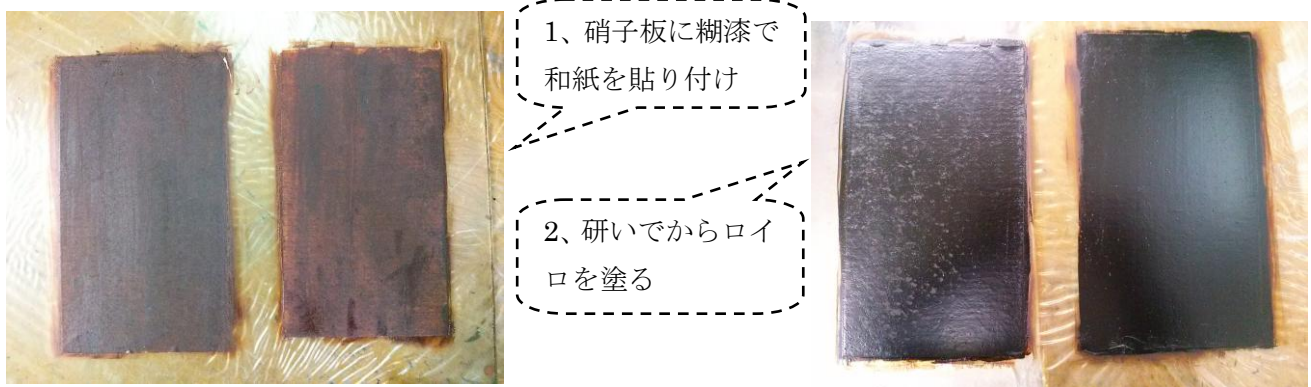
## 研究の目的

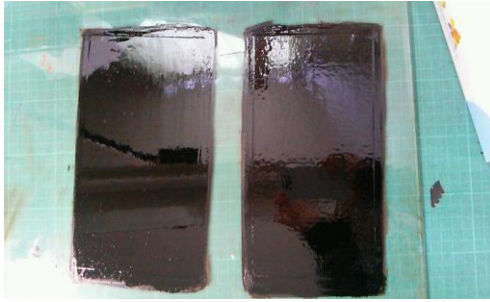
日本の良さや漆の美をパッケージに表し、認知度の低い一般消費者に積極的に普及宣伝し認知度を高めていく。今迄漆を塗ることが難しいと思われてきた商品や分野に漆を使用することにより新たな可能性を感じてもらおう。贈ることを目的として購入できる物のパッケージをデザインすることで、誰かに贈るという行為を利用し、多くの年齢層へ意識させることが可能である。

また、捨てないための工夫をすることにより、とっておいて使用してもらうことで漆を生活の中に取り入れてもらうような作品を制作する。

## 研究のプロセス

### 【漆紙制作にあたっての実験】





3、研いでから二度  
目のロイロを塗る

水を染み込ませつ  
つカッター等で剥  
がし完成



### 【箱】

- 1、アイデアスケッチ
- 2、図面を引く
- 3、漆紙の作成
- 4、木地の切り出し
- 5、漆紙の切り出し
- 6、組み立て
- 7、塗り

### 【紙袋】

- 1、アイデアスケッチ
- 2、漆紙の作成
- 3、紙の切り出し
- 4、組み立て

## 考察

パッケージデザイン及び制作し、新たな分野からの漆の提案と認知度向上につながるものができたのではないかと思います。

今回は強い個性を持つブランドを想定し、同じゼミである坂場さんのアクセサリーのデザインをさせていただいた。制作を進めていく上で苦労もあった。制作物として実際にものを入れたときの雰囲気や、ブランドのイメージに合っているかなどさまざまな人に見てもらい調査できればよかったと感じた。紙を用いた作品制作は初めての作業ばかりで思うように作業を進めることができず苦戦したことのほうが多かった。しかし漆紙の実験や、それを用いたて制作することで漆に幅広い可能性を感じることもでき、楽しくもあった。